

## 長野式治療ドイツセミナー宣伝文

長野康司

現在、日本では多くの鍼灸治療法があります。毎年のように新たな治療法が生まれているという状況です。

2011年12月に日本で最も歴史が古く、唯一の鍼灸専門誌である「医道の日本」が全国の鍼灸に従事している先生(鍼灸師、柔整師)にアンケートを行いました(回答をよせた人は400名)。その中の「主たる治療理論」という項目で、最も多かったのが「東西折衷(東洋医学と西洋医学両方重視)」で45%。次が「西洋医学」20%、「伝統鍼灸」は18%でした。この「東西折衷」の中で、臨床に携わっている先生方が最も取り入れているのが私たちの「長野式治療」なのです。

治療家にとって多くの疾患に対する即効性と治療の再現性があれば、誰でも治療に取り入りたいと考えるでしょう。「長野式治療」はこれらの効果を備えています。

ではなぜこれだけの効果があるのか。「長野式治療」の特徴を説明しましょう。

- 1 人間の体には本来、自然治癒力というものがあります。これを阻害するものがあると病気が発症してきます。この自然治癒力を妨げている要因を5つに分け、これを取り除くことによって治癒へと導いていきます。これが鍼灸の古典理論(素門、靈枢、難経、脈経等)及び西洋医学の解剖、生理学、病理学に根拠を置き、数十万という患者の体を通して創り上げた治療法なのです。5つの要因とは
  - 1) **免疫系**～我々の体にはウイルス、細菌等から体を護る免疫機構(骨髄、白血球、扁桃、リンパ節、胸腺、粘膜下リンパ組織)があり、これらの機能を活性化する処置。
  - 2) **血管系**～血流が滞ったり、虚血に陥ったりすると体の治癒力が低下して体調が崩れていく。この血液循環を促進、調整する処置。
  - 3) **神経・内分泌系**～ホメオスタシスがある故に人は心身共にバランスが取れている。しかし、このバランスが乱れると病気に傾いていく。自律神経・内分泌の働きを調整する処置。
  - 4) **筋肉系**～筋肉、腱や靭帯のこわばり、硬化或は弛緩によって体の方々に痛みやしびれ、違和感などが出る。この歪みを正していく処置。
  - 5) **気系**～鍼灸治療はそもそも、経穴を使って“気”の巡りを良くする治療です。とりわけ“気”の流れを促進し、調整していく処置。
- 2 病気を診るだけでなく病人を診ていく。患者の今の症状がどの様にして起こったのか、その背景には何があったのか、その為の今までの治療や検査、現在服用している薬、既往症、患者の性格や家庭環境、職場、対人関係などを知っておくことは治療する上で、非常に大事なことです。つまり病人全体を診る“丸ごと治療”をしていく。



- 3 診断(所見)から治療(処置)がシステム化されているということです。問診、脈診、腹診、その他の反応点で全身からの情報収集をして、それを症状と照らし合わせながら、総合診断(所見)し、そして方針(証)を立て、5つの分野の処置法を駆使して、治癒という目標に向かって治療していくということです。

長野式治療セミナーでは処置法を詳しく解説していき、実技、模擬治療も行いたいと思います。是非、ドイツ国内の医師、療術師の先生方、奮ってご参加ください。

© Koji Nagano